

中教審答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」(令和7年2月)において理工系人材育成が高等教育改革の柱として位置付けられたことに加え、「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)」(令和8年2月)においても、普通科における文理横断的な学び、理数・文系的素養やAIを使いこなす力の修得、理数探究拠点整備、理数系人材育成支援等、AIに代替されない能力や個性を伸ばし、日本や地域の経済社会を支える理工系人材育成が提言されており、そうした人材育成を支える学校教員の確保も急務である。

一方、全国的な課題である公立学校の教師不足について、文部科学省が令和8年3月に公表した「令和7年度 教師不足に関する実態調査」では、不足数は全国で3,827人(不足率0.45%)に達し、校種別ではとりわけ中学校で高い水準にある。愛知県固有の状況としては、中学校の不足率が0.91%と、全国平均(0.47%)を約2倍上回っている。こうした国の調査結果に加え、県内53市町村教育委員会(名古屋市を除く)を対象とした本学独自のアンケート(回収N=26・回収率49.1%)において、小・中学校での教員不足が強く懸念され、なかでも理科・技術をはじめとする専門・実技教科の不足感が突出していることが明らかとなった。

本事業では「愛知県内の中学校教員不足の解消」という地域課題及びこれからのAI時代にイノベーションを創出できる人材を高校段階から育てていく理工系人材確保の方向性に対応し、「科学・ものづくり分野」に強みを持つ理科・技術の中学校教員を継続的・安定的に養成・確保するシステムを構築する。

県内で唯一「技術」の課程認定を有する大学

科学・ものづくり教育推進センターの実績

高大連携の実績

愛知教育大学
科学ものづくり教育推進センター

連携

愛知県教育委員会
名古屋市教育委員会
刈谷市教育委員会

地域課題に対応した教師を
継続的・安定的に確保

1 大学入学前

- **教師の仕事への理解促進**
本学が主催する「こどもまんなかシンポジウム」や「地域連携フォーラム」等への参加を促し、教職志望を掘り下げる機会とする
- **子どもと関わる経験**
愛知教育大学が2007年から開催している体験型の科学イベント「科学・ものづくりフェスタ」において、高校生の探究発表の場を設け、教職志望を早期に喚起

2 入試改革

- **地域教員希望枠入試を新設**
 - ・学校推薦型選抜を予定
 - ・定員10名程度を予定
 - ・令和10年度実施予定(令和11年度入学)
- 教職への意欲と、科学・ものづくり教育に係る適性等を評価



訪問科学実験「わくわく」
マスコットキャラクター「ワンダーくん」

3 大学(在学中プログラム)

- **カリキュラム(正課内)：授業科目の新設**
 - ・2年次「学校体験活動Ⅰ(科学・ものづくり)」(必修)の科目を新設し、科学部のある中学校を体験先として、
 - 理科や技術の授業見学
 - 実験や実習の準備や専門教室の整備
 - 科学部の活動に参加
 - ・3年次「学校体験活動Ⅱ」「地域協働教育体験活動」(選択必修)
 - 企業等と連携して科学館等において実験ショーの運営
 - ・3年次「理科実験指導(仮称)」・「技術実習指導(仮称)」の授業科目を新設。
- **カリキュラム(正課外)：実績ある活動への参加**
 - ・科学・ものづくりフェスタへの出展、「訪問科学実験わくわく」等への参加及び現職教員研修の講師補助等の活動を積極的に推奨し、科学の面白さを子どもたちに伝える経験を蓄積



4 教員採用

- 教員採用における特別選考
教育委員会と連携して教員採用試験の特別選考を検討
- 大学入学前段階・入試・在学中プログラムの活動を評価

5 卒業後

- 教育現場のリーダーとして地域の科学・ものづくり教育を牽引
- 教職大学院での学び直しの推進、教育委員会のキャリアパス構想における研修等について検討

大学入学前

入学者選抜

大学在学中

教員採用

期待される成果

「科学・ものづくり」の強みを備えた理科・技術の教員を継続的に養成して安定的に確保し、地域の教育の質向上と地域の目指す理工系人材育成の基盤強化に寄与する。